

関修委第2回研究協議会議事録

日時：平成14年9月20日(金)13時55分～15時30分

場所：東京文化会館

<議 事>

1.平成14年度修学旅行の実施状況について

(1)事務局長・三上より全体の専用列車の利用状況について報告を行った。

(2)各県の実施状況報告

茨城県：特になし。平成16年度は、5月実施の割付を勘案いただき有り難かった。

栃木県：特になし。ローテーションで苦情等はなかった。

群馬県：トラブル等特になし

埼玉県：事故なく順調だった。なお、平成16年度から春・秋の中体連、秋の新人戦が、6月中旬の中体連、10月の新人戦2回となりローテーション上、6月実施となると修学旅行専用列車の利用校から脱会する学校が多くなるのではと懸念される。

千葉県：なし

2.平成16年度関修委修学旅行専用列車について

(1)事務局長・三上より、平成16年度修学旅行専用列車の申込みは8月31日現在で779校・115,960人で、平成15年度と比較して20校約5,000名の減少となっている、と報告した。

報告内容に特に意見はなく、承認された。

(2)割付組み合わせ・出発日発表までの手順

事務局長・三上より、平成16年度割付の目安に従い、組み合わせ原案を作成した。各県組み合わせチェック、及び事務合理化・簡素化を含め発表方法について以下の通り提案した。

・組み合わせチェック...出発日を表示しない組み合わせチェック

・決定割付は各県単位の表を学校連絡用とする。

出発日を表示しない組み合わせチェックについて

従来通り、出発日を入れた組み合わせ表を提示しチェックを行うことに決定した。

決定に至る意見は、以下の通り。

・出発日が表示されないとチェック自体の意味がない。(茨城・栃木)

・出発日表示は、関修委における運営委員会と事務局との信頼関係が前提である。また、事務局と委員は一体と考えていたが、考え方を見なおす。(栃木)

・希望出発日のチェック等を含め出発日の好評が必要。(千葉)

・簡素化、効率化が関修委離れにつながらないか(会長)

出発日についての意見

・4月実施は、クラス編成ができていない現状の中で成果が上がらない。(会長ほか)

・運転期間は、過去秋まであったのが前倒しになったのでは。Aコース4月実施は避けたい(埼玉)

・4月実施は避けたい。学校のニーズに合わせた形の連合体を(栃木：田中)

3.委員会、編集委員会報告

研究委員長：実施状況について集計データをもとに考察している状況を報告

編集委員長：関西の旅の部分改訂、しおりの考察状況について報告

4.第38回研究発表会について

小島会長より、今大会の概要と各県からの参加を要請した。各県への参加人数要請は、茨城県40名、栃木県30名、群馬県10名、千葉県45名で会債権の埼玉は135名を予定している。

特に意見はなく、各県参加人数要請は承認された。

併せて、次年度開催の栃木県から第39回の研究発表会の要項(案)-別紙-が発表された。

5. JR 各社への陳情・要望並びに意見交換会について

事務局長・三上より、継続項目である継走臨の陳情、東海道新幹線品川駅開業に伴う修学旅行団体への対応に対する要望並びに意見交換会について説明を行った。

(1) 東北・上越新幹線、房総の乗り継ぎ特急列車の割引陳情

9月中旬に関修委、全修協連名により、運営委員長並びに全修協理事長が JR 東日本で継続陳情する。

陳情書、陳情者は原案のとおり承認された。

(2) 東海道新幹線品川駅開業にともなう修学旅行団体に対する対応の要望

9月中旬に、関修委のみならず修学旅行団体の品川駅開業に伴う対応について、JR 東海に対し全修協が全修協理事長が出向き要望を行う。

要望事項等原案の通り承認された。

(3) JR 二社との懇談会について

10月17日、第3回研究協議会にて JR 東日本、JR 東海との意見交換会を開催。関修委及び各県の要望事項をまとめ事前に JR 各社へ提示する。先の陳情、要望の回答も意見交換会までにもらう。要望事項等は別紙書式で各県でまとめ、10月4日までに事務局へ送付。

事前の要望書提出、陳情・要望結果の回答期限等原案の通り承認された。

<その他>

1. 全修協修学旅行ホームページコンクール要項の配布協力要請

事務局・吉野より、全修協の第2回ホームページコンクールの要項配布について協力要請を行った。具体的には、各校1枚を修学旅行新聞10月号と併せ各県・各地区に送付。

特に意見もなく、協力要請は承認された。